

子宮頸部 CO₂レーザー蒸散術に関する説明書・同意書

そしがやレディースクリニック

院長 長島 克

1. 診断名(疑いを含む)

診断:

本書は、上記疾患に対する治療内容、必要性、代替治療、予測される利益および不利益、合併症、予後、費用等について説明するものです。

2. 疾患の原因と病態

子宮頸部異形成および子宮頸がんの主因は

ヒトパピローマウイルス(HPV)感染です。

持続感染により前がん病変(CIN)を経て浸潤がんへ進行する可能性があります。

治療方針は

日本婦人科腫瘍学会のガイドラインおよび現時点の医学的知見に基づき決定します。

3. 本治療の目的

- ・病変部の局所制御
- ・浸潤がんへの進行予防
- ・妊孕性温存(該当する場合)

4. 治療内容

子宮頸部 CO₂レーザー蒸散術

【方法】コルポスコープ下で病変範囲を確認し、CO₂レーザーで蒸散焼灼

【麻酔】局所麻酔(必要時全身麻酔追加)

【時間】約 15~30 分

【入院】原則日帰り

※本術式は病変を焼灼する治療であり、切除標本は得られません。そのため、術後に組織学的進行度の確定診断はできません。

5. 代替治療および選択肢

1. 子宮頸部円錐切除術(標本取得可能、早産リスク上昇(1.5~4倍)あり)
2. 子宮全摘術(妊孕性喪失、再発率低い)
3. 経過観察(病変進行の可能性あり)

上記について説明を受け、比較検討する機会が与えられました。

6. 予測される利益

- ・侵襲が比較的軽微
- ・出血が少ない
- ・妊娠予後への影響が少ないとされる

7. 予測される不利益および合併症

(1)局所合併症

- ・術中／術後出血(大量出血時は縫合・再手術・輸血の可能性)
- ・感染
- ・子宮頸管狭窄・閉鎖(約1%)
- ・病変残存・再発

(2)全身合併症

- ・麻酔関連合併症(血圧低下、アレルギー等)
- ・血栓症、肺塞栓症
- ・脳梗塞
- ・神経損傷
- ・極めて稀に生命に関わる重大合併症

※医学的に合理的注意を尽くしても、これらを完全に回避することはできません。

8. 術中の裁量権

術中に予期しない所見や合併症が生じた場合、患者の安全確保のため医学的に合理的と判断される処置（止血処置、縫合、追加処置、手術中止、高次医療機関への搬送等）を行うことがあります。

9. 追加治療の可能性

術後経過や検査結果により、円錐切除術、子宮全摘術等の追加治療が必要となる場合があります。

10. 術後管理義務

少なくとも1年間の定期受診が必要です。

受診中断により生じた不利益について、医療機関は責任を負いません。

11. 費用

本治療は健康保険適用です。

合併症に伴う追加治療費も保険診療となります。

12. 個人情報および画像利用

匿名化した診療情報・画像を学術・教育目的に使用する場合があります。個人が特定されることはありません。

13. 同意撤回権

患者は、手術実施前であれば理由を問わず同意を撤回できます。

同意確認書

私は、本書面による説明および口頭説明を受け、以下を理解しました。

- 疾患の内容および自然経過
- 本治療の目的・方法
- 代替治療の内容と利点・欠点
- 合併症および重大偶発症の可能性
- 追加治療の可能性
- 同意撤回が可能であること

十分に質問する機会が与えられ、納得のうえで治療を選択します。

- 同意します
- 同意しません

説明医署名：

説明日：西暦 20 年 月 日

患者署名：

署名日：西暦 20 年 月 日

<代諾者(必要時)>

氏名：

患者との関係：

署名日：西暦 20 年 月 日